

専門学分野 授業計画

授業科目及び時間数	薬理学 1単位 30時間	
開講時期	2年次 前期	
担当教員	齋藤興輝	
科目のねらい・到達目標		
<p>疾病の治療、予防、検査などに使用される各薬剤の分類、特徴、作用機序、副作用等を学ぶことで、医療現場に出た際にそれらを適正使用し論理的なアセスメントを行うことができるだけの知識を身につける。</p> <p>実臨床で使用頻度の高い薬剤の各論や看護上の注意点については特に掘り下げて講義し、実習で関わる実際の薬物治療とリンクさせて体系的に知力と考察力を向上させる。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	<第1～2章>薬理学概論	講義
2回目	<第3章>抗感染症薬	講義
3回目	<第4章>抗がん薬	講義
4回目	<第5～6章>免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
5回目	<第7章>末梢での神経活動に作用する薬物	講義
6回目	<第8章>中枢神経系に作用する薬物	講義
7回目	<第9章>循環器系に作用する薬物	講義
8回目	<第10章前半>呼吸器に作用する薬物	講義
9回目	<第10章後半>消化器に作用する薬物	講義
10回目	<第11章>生殖器系・物質代謝に作用する薬物	講義
11回目	<第12章>皮膚科用薬・眼科用薬	講義
12回目	<第13～14章>救急の際に使用される薬物・漢方薬	講義
13回目	<第15～16章>消毒薬・輸液製剤・輸血剤	講義
14回目	その他の薬剤・まとめ	講義
15回目	終了試験	試験
評価方法	筆記試験90%・平常点(出欠・受講態度など)10%	
受講生に対するメッセージ	医療の多くの場面において薬はとても重要な役割を担うため、その効果や仕組みを理解することで専門的視野が大きく広がる。それにより看護業務が質の高いものになり、よりやりがいを持って行えるようになるはずなので是非積極的に学んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学 医学書院	
参考書		